

育ちと学びをつなぐ

2026.10.14

福島県教育庁義務教育課
(ふくしま幼児教育研修センター)
第3号

福島県教育委員会では、田村市、喜多方市、南相馬市を幼児教育推進地区として指定し、幼児教育の質的向上や架け橋期の教育の充実、家庭や地域との連携に関する実践研究に取り組んでいただいています。今回は、南相馬市の取組を紹介します。

架け橋期：義務教育開始前後の2年間のこと（年長4月～小学校1年生3月まで）

「0歳児からの積み重ねがあって、子どもは成長していくんだね。」

南相馬市では、8月に「子どもの姿で語り合う主体性の接続」をテーマに、南相馬市立かしま保育園において公開保育を実施しました。園の先生、小学校の先生、地域の方、保護者の方が参観しました。

0歳児から5歳児すべてのクラスを公開することにより、発達段階に応じた子どもの育ちと学びについて考える機会となりました。

参観後は、子どもの姿をもとに、遊びの中の学び、保育者の関わり、環境構成等について協議しました。「0歳児からの積み重ねがあって、子どもは成長していくんだね。」等の意見が出されました。

公開保育当日の流れ

- 1 有識者から幼児教育についてや公開保育を見るポイントについて説明
- 2 ポイントをもとに0歳児から5歳児の様子を参観
- 3 ポイントをもとに見取ったことを交流する（保護者、地域の方、園・小学校の先生）

参加者の声

小学校の授業は、園での遊びがベースになっていると感じました。園での経験が小学校への学びにつながっていると思いました。
(小学校低学年教諭)

クラスみんなで話し合う時間があり、これが友達との関わりや、やりたいことの意欲の深まりにつながっていくのだらうと思いました。
(年長児保護者)

我が子を育てた時の保育と、現在の保育の在り方が変わってきていることに気がきました。
(地域民生委員)



令和5年12月22日に、こども家庭庁より『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月※1の育ちビジョン）』が出されました。

そこには、「特に『こどもの誕生前から幼児期まで』は、**人の生涯にわたるウェルビーイングの基盤となる最も重要な時期**である。全世代の全ての人でこの時期からこどものウェルビーイング向上を支えていくことができれば、『こどもまんなか社会』の実現へ社会は大きく前進する。これは**社会全体の責任であり、全ての人のウェルビーイング向上につながる。**」と書かれています。誕生前から小学校1年生まで切れ目なく育ちと学びがつながることが大切です。

※1 はじめの100か月：母親の妊娠期から小学校1年生までのおおむねの期間

「はじめの100か月」とは？



※誕生月によって変動あり。94～106か月→概ね100か月。

【幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（こども家庭庁）】

この公開保育では、保護者や地域の方にとって、幼児教育でどんな力を育てようとしているのか、0歳児から5歳児までの育ちと学びのつながり、そして小学校へのつながりを考えるきっかけになる貴重な機会となりました。

保育所や認定こども園の保育を参観し、0歳児からの育ちや学びについても考えてみませんか？